

2019年度農林水産省行政事業レビュー(公開プロセス)の結果

「知」の集積と活用によるイノベーション創出推進事業

<評価結果>

「事業内容の一部改善」

◇ 評価結果

現状通り	1 名
事業内容の一部改善	5 名
事業全体の抜本的な改善	0 名
廃止	0 名

<取りまとめコメント>

○事業の課題や問題点

- ・産学官の連携のために、国という立場を活かした役割を果たすことができていると考える。
- ・プラットフォームの形成はマッチングを行う上で、効果的である。民民で行われた事業に関しても把握しているか。
- ・研究開発プラットフォームと研究開発の関係性がロジックモデルで明確になったが、プラットフォームが研究開発にどうつながるのか、それを見える化することが重要。プラットフォームは当初の立ち上げ時は仕方ないと思うが、将来的には出口戦略を描くべきである。
- ・公金を入れて研究を行うためには、民間ではリスクが高い、規模が大きい、社会的インパクトが大きいなどの、公金を入れるだけの理由が必要。その点から考えれば、採択基準にある行政上の必要性の観点は重要である。単に事業化しやすいからという理由ならば、民間だけで行うべき。
- ・失敗の割合が少々低いように思われる。これはそもそも民間資金で実施可能であったのではないか。
- ・まだ事業の途上ではあるが数十億円を3年継続してきたのに対して、製品化の売上実績は数億円が最大とのことなので費用対効果の現状は不十分と思われる。
- ・一者応札については、仕様書の詳細化等、当年度に改善済であり、引き続きの取り組みが求められる。
- ・ロジックモデルにおける「アウトカム」において「中期」以降の把握があいまい。肝心の成果については、個々のエピソードの開示にとどまり、全体像が見えない。
- ・本事業による研究成果によって実現した商品・サービスの実用化ないし事業化の状況は、ロジックモデルでは長期アウトカムになっているが、これを把握できていない。
- ・研究開発の活性化自体を目的の1つとすることはよいと思うが、最終アウトカムがそれだけとなってしまうのは事業の意義が分かりにくい。

○事業の改善の手法や見直しの方向性

- ・お役所で行われる事業としては、プラットフォーム事業というのは画期的であると思う。5年後以降の展開を考えるべき。
- ・プラットフォームについては、立ち上げ時は仕方がないとしても、将来的には参加者から会費を集めるなど、民間が自立して運営できるように持っていくべき。
- ・プラットフォームによる外部資金獲得の成果は上がっているが、今後はプラットフォームが研究開発につながり、それが最終的な成果を上げているかの成果を指標として把握する必要がある、レビューシートの成果指標に反映すべき。
- ・(イノベーション創出事業について) 民間資金でできるものは採択しないこと。失敗した研究内容についても公開したかどうか。
- ・最終的に本事業の研究開発で実現した商品・サービスの成果は、本事業の最終的な成果として、レビューシートの成果指標に反映すべき。
- ・基礎研究、応用研究、開発研究といった、それぞれのステージに応じて、具体的なアウトカムを設定し、そのうえで、全体像が見えるようにしていくべき。(研究開発マネジメントにおける工夫)
- ・途中年度でも事業の進捗を把握管理できるようなアウトカム指標を導入する必要がある。
- ・長期アウトカムについては「実用化・事業化」と「投資拡大」を並立させたほうがよい。